

# 35 学びの質を高める授業改善プロジェクト事業 学びの質を高める学校図書館等活用推進

青森県 八戸市立小中野中学校

## 基本データ

所在地	八戸市小中野三丁目9番26号
児童生徒数	163人
教職員数	15人
蔵書数	約8,000冊
年間貸出冊数	約600冊

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】授業改善、教員による利活用の推進

【活動のねらい】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 読書を通して作品のおもしろさを味わい、自分の見方や考え方を広げ、深めようとする事ができる。

## 取組・活動の概要

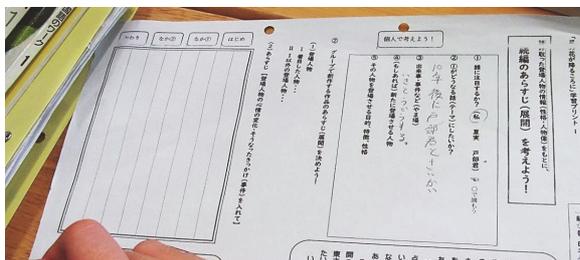
【対象学年】第1学年

【対象授業】国語科

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図った。
- この取組では、教科書教材を使って学んだ読み方で、選書した本を読み、展開を想像して読ませる授業を行った。

【指導の実際】

- 前時の学習を振り返り、物語の続編を作らせるに当たって、どの登場人物を中心にするのかを明確にさせた。
- 登場人物の心の成長がわかるように、文章の展開に即して続編を作り、発表させた。学校図書館資料の展開をヒントとしたワークシートを使用した。



「星の花が降るころに」の続編をグループで作成

- 以前読み聞かせした学校図書館の本についての読み取りも手掛かりにしながら進めさせた。
- 学校図書館の蔵書から選書した本を用いて、黙読の後に「その後が読みたい度」を評価させた。
- 学びを振り返り、学んだことや感じたことなどについて自己評価した。

【取組・活動内容】

- 読書センターとしての現状と「思考力・判断力・表現力等」の現状について、全国学力・学習状況調査と教研式 NRT 検査などにより把握した。
- 全国または県の実態と本校の実態を比較することで、課題を抽出し、仮説を立てた。
- 授業後の校内研修において、学校図書館活用の有用性について協議した。
- 読書に関するアンケート調査及び「思考力・判断力・表現力等」に関するテストを実施し、変容を把握した。

## 取組・活動の工夫や特徴

- 学校図書館・学校図書室や地域の図書館の利用状況と、読書への興味・関心について、「全国学力・学習状況調査 質問紙調査」の質問項目を抽出し、全国と本校との比較をした。
- 「教研式 NRT 検査」の分析による「思考力・判断力・表現力等」の実態把握については、国語科4領域の分析を行い、県と本校との比較をした。
- 授業で取り扱う教科書教材と同一作者の本を取り上げ、単元の第1時で指導した。また、「先生方が中学校時代に読んだ本」として本校の教職員が学校図書館から準備した本を、単元の最終時で紹介した。

- 校内研修の取組として、授業における学校図書館の活用について協議した。



授業の様子

## 取組・活動の成果や今後の展望

### 【成果】

- 学校図書館の本を使って読み取った資料のおかげで、生徒は授業のねらいを達成できていた。
- 読書に関心をもつ生徒がやや増えた。



図書館に来て、気になる本を読む生徒たち

- 課題であった「文章及び段落構成の読み取りや要点をまとめる」について、向上がみられた。

### 【課題】

- 国語以外の教科で学校図書館を活用した授業が行えるよう、図書館資料の整備や教科での活用法について周知が必要である。
- 司書教諭が配置されているが、他の校務と兼務しているため、学校図書館の運営に時間をほとんど割くことができない。

### 【展望】

- 学校図書館長である校長のリーダーシップの下、司書教諭による学校図書館運営計画を作成し、運営の効率化を目指す。

